

から

2011年度 新着図書 オススメ本

年	月	請求番号	オススメ本 (著編者・出版社・出版年)	
2011	4※	2106/フ	『単身急増社会の衝撃』 (藤森克彦・日本経済新聞出版社・2010年)	
		2114/ヨ	『強い者は生き残れない 環境から考える新しい進化論』 (吉村仁・新潮社・2009年)	
		2110/エ	『西原理恵子×月乃光司のおサケについてのまじめな話 アルコール依存症という病気』 (西原理恵子、月乃光司・小学館・2010年)	
	5	1203/ジ	『県犬養橋三千代』 (義江明子・吉川弘文館・2009年)	
		2110/ヨ	『人生って?』 (よしもとばなな・幻冬社・2009年)	
		2204/ヤ	『おとなの進路教室。』 (山田ズーニー・河出書房新社・2007年)	
	6	1102/ノ	『父親再生』 (信田さよ子・NTT出版・2010年)	
		1203/コ	『柳宗悦を支えて 声楽と民藝の母・柳兼子の生涯』 (小池静子・現代書館・2009年)	
		3202/ヤ	『宇宙家族ヤマザキ 妻から届いた宇宙からのラブレター』 (山崎大地・祥伝社・2010年)	
	7	3101/オ	『結婚の才能』 (小倉千加子・朝日新聞出版・2010年)	
		6102/ユ	『ファミリー・シークレット』 (柳美里・講談社・2010年)	
		6103/イ	『「女の子写真」の時代』 (飯沢耕太郎・NTT出版・2010年)	
	8	1101/ヨ	『私に萌える女たち』 (米澤泉・講談社・2010年)	
		1103/カ	『マリー・キュリーの挑戦 科学・ジェンダー・戦争』 (川島慶子・トランスビュー・2010年)	
		4209/サ	『親の世話ヒトに任せてボランティア』 (坂巻熙・あけび書房・2010年)	
	9	2105/オ	『パートナーめに左右されない一生のマネー計画』 (大竹のり子・梧桐書院・2010年)	
		2202/ア	『こんなワタシが働く「お母さん」!? パニック障害といっしょ。』 (青柳ちか・イースト・プレス・2011年)	
		6102/フ	『幕末銃姫伝 京の風会津の花』 (藤本ひとみ・中央公論新社・2010年)	
	10	5103/ヤ	『女子と出産 晩産時代を、どう生きる?』 (山本貴代・日本経済新聞出版社・2010年)	
		6102/オ	『だいじょうぶ3組』 (乙武洋匡・講談社・2010年)	
		6102/カ	『母 オモニ』 (姜尚中・集英社・2010年)	
	11	2202/ホ	『放送ウーマンのいま 厳しくて面白いこの世界』 (日本女性放送者懇談会編・ドメス出版・2011年)	
		3103/マ	『結婚しなくていいですか。 すーちゃんの明日』 (益田ミリ・幻冬舎・2008年)	
		3206/モ	『育児ばかりでスママセン。』 (望月昭・幻冬舎・2010年)	
	12	1202/カ	『苦節23年、夢の弁護士になりました』 (神山昌子・いそっぷ社・2011年)	
		5210/ヨ	『性暴力』 (読売新聞大阪本社社会部・中央公論新社・2011年)	
		6102/カ	『七人の敵がいる』 (加納朋子・集英社・2010年)	
	2012	1	2110/サ	『働く君に贈る25の言葉』 (佐々木常夫・WAVE出版・2010年)
			2205/ア	『ゆっくりやさしく社会を変える NPOで輝く女たち』 (秋山訓子・講談社・2010年)
			6201/オ	『負けないで!』 (小笠原恵子・創出版・2011年)
2		1101/ク	『ハーフ・ザ・スカイ 彼女たちが世界の希望に変わるまで』 (ニコラス・D・クリストフ&シェリル・ウーダン 英治出版 2010年)	
		3101/フ	『結婚問題』 (深澤真紀・春秋社・2011年)	
		6201/マ	『ラグビーガールズ 楯円球に恋して』 (松瀬学・小学館・2011年)	
3		2202/シ	『〈わたし〉を生きる 女たちの肖像』 (島崎今日子・紀伊國屋書店・2011年)	
		5104/カ	『なさないけ どあきらめない チェルノブイリ・フクシマ』 (鎌田實・朝日新聞出版・2011年)	
		6102/サ	『月夜にランタン』 (斎藤美奈子・筑摩書房・2010年)	

※東日本大震災のため、2011年3月と同じ

H23年4月
から
新着図書 今月のオススメ本

★『単身急増社会の衝撃』【分類 2106/7/】

藤森克彦 日本経済新聞出版社 2010年

○単身世帯のリスクといえば、これまでは夫と死別した一人暮らしの高齢女性に注目があつまっていました。しかし、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、「2030年の日本」では、50代・60代男性の概ね4人に1人が一人暮らしとなるそうです。高齢期の一人暮らしのリスクを小さくするには、「公的なセーフティネットの拡充」と「地域コミュニティのつながりの強化」が重要と著者は考えています。現状分析、将来予想、そして豊富な事例をもとにした問題解決のための提案がされていますが、他人事ではないと考える方は、ぜひご一読を。

★『強い者は生き残れない 環境から考える新しい進化論』【分類 2114/3/】

吉村仁 新潮社 2009年

○生物進化では『最強』なモノは絶滅して『ほどほど』なモノが生き延び先の時代に進んでいく。長い時の視点を持てば、勝ち負けでは無い『共生』が必要なことであると著者はいいます。前書きでは2008年末にトヨタ自動車社長が社員に呼びかけていた「強いものが生き残るのではなく、環境変化に対応できたものだけが生き残るのだ」が、科学者として長い間確信していたことと同じで驚いたと紹介しています。……というわけで男性諸氏、環境【女】は『変化した』ので「生き残り」希望の場合、『共生』に向けて対応をお願いします(笑)。

★『西原理恵子×月乃光司のおサケについてのまじめな話 アルコール依存症という病気』

【分類 5104/4/】

西原理恵子・月乃光司 小学館 2010年

○アルコール依存症とは所謂「アル中」と呼ばれているものですが、正真正銘の病気です。この病気の怖いところは、家族が心神耗弱状態の患者にブンブンと振り回されることで患者を憎悪の対象としてしまうところにあります。本書は、サバイバーである月乃さんと夫がサバイバーの西原さんによる啓蒙本です。早期発見と治療、なにより患者の回復への信念があれば家族は再び笑いあえることをハートフルに淡々と教えてくれます。難しく書かれていないので、興味がない方にもぜひ読んで欲しいと思います。

H23年5月

から

新着図書

今月のオススメ本

★『県犬養橘三千代』【分類 1203/ジ/】

義江明子 吉川弘文館 2009年

○古いお墓が発掘され、女性天皇のものかなどと話題になることがあります。古代の宮廷の女官として力のある人がいました。県犬養橘三千代です。夫は右大臣藤原不比等、息子は左大臣橘諸兄（父は前夫美努王）、娘は光明皇后ということだけではなく、自身も元明女帝を支え、奈良朝の政界で活躍しました。『万葉集』には、そのような功績で橘の姓を賜ったときの歌が載せられています。「橘は 実さへ花さへ その葉さへ 枝に霜ふれど いや常葉の樹」(p.99)。古代には現代女性を上まわる影響力のある女性が少なからずいたかもしれませんよ！

★『Q 人生って?』【分類 2110/㊦/】

よしもとばなな 幻冬舎 2009年

○「人生相談コーナー」よろしく人気作家「よしもとばなな」がQ(設問)に答えます。まえがきで「一般論を書いてもインチキになってしまうので、正直に、」と著者本人が書いているように。なんだか、親しい友人に悩みを聞いてもらったような気がしてくる1冊です。悩み多き思春期からずっと思春期な方まで、ぜひ一読をおすすめします。

★『おとなの進路教室。』【分類 2204/ヤ/】

山田ズーニー 河出書房新社 2007年

○本書は「ほぼ日刊イトイ新聞」掲載の大人気コラム「おとなの小論文教室。」から自分らしい進路開拓のためのコラムを厳選、再編集したものです。タイトルどおり大人が対象。実際、社会に出て、各人程度差はありますが、酸(す)いと甘いを知って、思わず立ち止まりそうな人が読むと、ボディブローのような活が入ります。少々痛いけど、考える糸口をゲットできますよ。五月病対策としても有効。

H23年6月

から

新着図書

今月のオススメ本

★『父親再生』【分類 1102//】

信田さよ子 NTT出版 2010年

○著書はカウンセラー、DVやアルコール依存症等に悩む人や家族に寄り添って30年の家族問題のスペシャリストです。本書では息子視点で「団塊世代の父」を考察、家庭不在の企業戦士ゆえに口はもちろん背中でも息子に語れなくなった父親に、あえて語ることで自身、息子、家族の再生を提示します。団塊世代家族は必見の書です。

※図書室には、本書と対になる母娘関係の著書『母が重くてたまらないー墓守娘の嘆き』（春秋社、2008年）もあります。こちらもあわせておすすめします。

★『柳宗悦を支えて 声楽と民藝の母・柳兼子の生涯』【分類 1203/コ】

小池静子 現代書館 2009年

○家庭をかえりみず骨董品や古本に大金をつぎ込む、外面はよいが家ではわがまま、他に女性がいたりといわゆる明治の男、民藝運動の創始者の柳宗悦の妻であるといえ、ひたすら忍従するだけだったのではとイメージしてしまいます。しかし、夫とは大喧嘩もするし、声楽という好きで選んだ道が続けて、3人の子がいても技能を磨きに単身ドイツ留学したり、家計を支えるために演奏会を開く、音楽学校の講師をするなどの活躍をします。日本芸術院会員にも選ばれ92歳で大往生します。ちなみに息子の宗理はバタフライスツールで有名なデザイナーです。

★『宇宙家族ヤマザキ 妻から届いた宇宙からのラブレター』【分類 3202/Y】

山崎大地 祥伝社 2010年

○家族の一員として、家族とどのように関わり、どのように支え合っていくのか。著者は、2010年にスペースシャトル・ディスカバリー号の宇宙飛行士として宇宙へ行った山崎直子さんの夫です。宇宙への意外な舞台裏を楽しく描きながら、著者は「父として」「旦那として」、そしてご両親の介護を通して「息子として」、家族の在り方を模索します。妻を支えるためだけでなく、家族を最良の方向へ導くために努力する著者の姿から、家族という単位の難しくも大切であることが感じられる1冊です。

H23年7月
から
新着図書 今月のオススメ本

★『結婚の才能』【分類 3101/㍉】

小倉千加子 朝日新聞出版 2010年

○未婚増、晩婚化に潜むホンネに向きあう1冊です。平成不況の真っ只中、誰だって現実から目をそらし理想を語りたいですし、ましてやその背景にある欺瞞や打算に満ちた己の内面とは対峙したくないものです。ものですが、本書は軽妙洒脱、それをサラリとばらしかつ腹を括ればとのたまうにも関わらず、面白おかしく読めてしまうのです。因みに結婚の才能とは「恋愛のドキドキ感なしに結婚をスタートさせ、しかも結婚生活を破綻させない程度に相手に満足感を与え続ける才能」とのこと、とても高スペックですね…。

★『ファミリー・シークレット』【分類 6102/㍉】

柳美里 講談社 2010年

○ある日、児童相談所が著者のもとを訪ねて来ました。「児童虐待」と判断されそうな内容の著者のブログを読んだ2ちゃんねらーが通報したらしいのです。否定はしたもののある程度の自覚もありました。そんなとき、児童虐待などの有名な事件で心理鑑定を行なったことのある臨床心理士への取材の仕事が入り、結局自分自身がカウンセリングをうけることとなります。「ほんとうのこと」を話す決心をして、自分だけでなく父や母や家族のことを洗いざらい話していくうち父の秘密が明らかになっていきます。知らないうちに引き込まれてしまうお話です。

★『「女の子写真」の時代』【分類 6103/㍉】

飯沢耕太郎 NTT出版 2010年

○本書で言う「女の子写真」とは、「女の子」が写っている写真ではなく「女の子」が撮った写真のことです。様々なメディアが若い女性写真家を「女の子」と呼ぶのは、そこにポップな響きを求めているだけではなく、技術や年齢の未熟さをからかう意味も込められています。著者はそれに疑問を抱きかっこ書きにしています。ポップなタイトルや表紙の写真とは裏腹に、写真家の歴史や苦悩、被写体の移り変わりから見えてくる時代の変化が凝縮された内容になっています。掲載されている写真のほとんどは白黒なので、写真集『女性フォトグラファーズ・ガイド』【分類 6103/㍉】も合わせてご覧いただければと思います。本書で紹介される一部の写真家の作品を、カラーで見ることができます。

H23年8月

から

新着図書

今月のオススメ本

★『私に萌える女たち』【分類 1101/㍻】

米澤泉 講談社 2010年

○結婚＝ゴールではなくなった今、女性の幸せは夫・子どもプロデュースではなく自分プロデュース！本書は、脱・良妻賢母、一生涯姫目指して奮闘する女性たちが生まれた背景を女性グラビア・ファッション誌から分析したもので、現在日本女性が「カワイイ」にはまっている理由をファッションと芸能ネタを駆使して艶（あで）やかにかつイキキと解き明かしています。もちろん学術的分析も鋭くて、私萌え女性にぴったりの結婚相手として「草食系旦那」が出てきたところはやられたと思いました。ワクワクして読める女性論、オススメです。

★『マリー・キュリーの挑戦 科学・ジェンダー・戦争』【分類 1103/㍿】

川島慶子 トランスビュー 2010年

○有名な女性科学者といえば？と問われれば、おそらく多くの人が、放射能の研究によって2度のノーベル賞を受賞したマリー・キュリーを思い浮かべるでしょう。本書では、なぜ彼女が数ある女性科学者の中でも注目を集めるのか、彼女を取り巻く時代背景や周辺の人物など、広範に焦点を当てて考察されています。名前しか知らないという方はもちろん、かつて伝記を読んだことがあるという方も、本書を通して新たな発見があるのではないのでしょうか。“「女役割」ではなく、一人の人間として”生きたマリー・キュリーの力強さが伝わってくる1冊です。

★『親の世話ヒトに任せてボランティア』【分類 4209/㍿】

坂巻 熙 あけび書房 2010年

○大震災に見舞われ、多くの人が自分も何か社会貢献をしなければと考えているのではないのでしょうか。ボランティアといっても何ができるかわからないし、かえって迷惑をかけるのではという不安もあるようですが、だれでも小さなことから始められるのです。募金や寄付、使用済み切手などの収集、音訳や点訳、触る絵本製作、里親、ガイドヘルプ、介助、移送や食事サービス、中古衣料のリサイクル、手芸や碁などを教える、図書館・美術館などのガイド、医療関係……。新聞記者だった著者の福祉に関する講演をまとめたものですが、大変参考になりますよ。

H23年9月

から

新着図書

今月のオススメ本

★『パートナーに左右されない一生のマネー計画』【分類 2105/オ】

大竹のり子 梧桐書院 2010年

○ファイナンシャルプランナーの著者による一生のマネー計画の提案です。想定し得るライフステージ、不測の事態…パートナーがいる方もいない方も、自立した一生を生きるためには考えることを避けて通れません。お金（出費）を生活に意味のあるもののできているかどうかは各人の価値観によると著者は言います。著者の組み立てた「お金を殺さない」ルールも、価値観によって賛否あるかと思いますが、自分の甘さに気付いてドキッとさせられる方が多いのでは。本書では、「時間をお金で買う」という発想が紹介されています。まさに時は金なり。ぜひ、本書で受けたことを生活に反映いただき、読書の時間が「浪費」に終わらないことを祈ります。

★『こんなワタシが働く「お母さん」!? パニック障害といっしょ。』【分類 2202/ア】

青柳ちか イースト・プレス 2011年

○ワーク・ライフ・バランス（WLB）に奮闘する漫画家&イラストレーターのエッセイ漫画です。時間に自由がきく職業のWLBはあまり注目されていないので、それを赤裸々かつほのぼのに描いた本書は男女共同参画業界において一石を投じるものだと思います。また、本書のもう一つの特長は作者に立ちほだかる問題がWLB+パニック障害であることにあります。このパニック障害って奴が非常に厄介で、作者をこと内向きにさせるのですが、あるきっかけでカミングアウト！ 作者を取り巻く事態が好転していく様はほんわか嬉しくなります。読後感が良く続きが読みたくなる本です。

★『幕末銃姫伝 京の風会津の花』【分類 6102/ア】

藤本ひとみ 中央公論新社 2010年

○裁縫や機織など当時の武家の女性の必須の習い事は大の苦手、力仕事が得意、また兄の影響でナポレオンの本を読んだり、西洋の武器の使い方を教わったりするほうが大好きという八重は、母からは結婚が遅れると心配されていました。幕末の日本をどうするかの大論争でテロや戦闘が頻発し、ついに会津藩にも薩摩・長州藩の軍隊が押し寄せてきます。数えるほどしかない旧式の武器、女はでしゃばるなという古い考えの老武士たちという悪条件の中で、大砲や銃を使いこなして大活躍をします。【分類 1201/ス】『私たちの明治維新』（p121～）も参考になります。

H23年10月
から
新着図書 今月のオススメ本

★『女子と出産 晩産時代を、どう生きる?』【分類 5103/㍗/】

山本貴代 日本経済新聞出版社 2010年

○日本の40～44歳の女性による出産は、年々増加する傾向にあります。女性がバリバリ働けるような雇用環境の変化に伴い、結婚や出産のタイミングが遅れがちになってしまいうことが一つの理由のようです。女性の社会的な選択肢が増えたのは喜ばしいことですが、出産適齢期は選べませんから、「晩産」で産みたい!と思った時に考えられる身体的な弊害を考慮しなくてはなりません。本書では、未婚でも「いつか産みたいと少しでも思っている」人に向けて、出産前の結婚というハードルから不妊治療の辛さまで、様々な女性の体験をまじえて出産にまつわる問いかけがされています。本書を、いつかの出産について考え、準備するきっかけにしてみてもはどうでしょうか?

★『だいじょうぶ3組』【分類 6102/㍗/】

乙武 洋匡 講談社 2010年

○『五体不満足』の著者による学園小説です。主人公赤尾先生は著者の分身(著者の3年間の教員生活が元!)、手足がありません。しかし、だからこそその型破りな生徒へのコミットは、五体満足な先生達にとって手も足もでないわけで、そこが本書の醍醐味のひとつかと思えます。また、実話と理想が絶妙にブレンドされた仕様により、感動だけではなく教育における問題提起が要所に織り込まれている感じがします。小学生でも読めるようにルビが振ってありますので、世代関わらず読んで頂きたい1冊です。

★『母-オモニー』【分類 6102/㍗/】

姜尚中 集英社 2010年

○十六歳の母が、日本に出稼ぎに来ていた父と結婚したのは、太平洋戦争が勃発する頃でした。戦況が厳しくなり、朝鮮へ帰る前に父の弟に会おうと熊本に行きますが、そのままそこで生活することになります。同じく貧しい同郷の人たちと助け合って、食料不足を補うためドングリや山菜、ドジョウなどを取りにいたり、養豚や廃品回収の仕事を始めたりしました。差別を受ける、読み書きができず騙されるなどの苦労を重ねた母でしたが、人の表裏もおカネの使い方も分かるようになっていきました。息子による母を描き尽くした一篇です。読み応えがあります。

H23年11月
から
新着図書 今月のオススメ本

★『放送ウーマンのいま 厳しくて面白いこの世界』【分類 2202/ホ】

日本女性放送者懇談会編 ドメス出版 2011年

○女性が放送界で働いているというと、アナウンサーやキャスターなどのイメージが強いのですが、プロデューサーやディレクター等の番組の制作に携わる人も多く、部長など役員にまでなるというケースもあり、幅広く女性が進出しているのに驚かされます。『ハケンの品格』、『相棒』、『日本海軍 400時間の証言』、『すばらしい世界旅行』などのテレビドラマ・ドキュメンタリー番組や、『ラジオ深夜便』などのラジオ番組に実際に関わった方々の対談が大変興味深いです。巻末に「放送ウーマン賞 (SJ 賞)」歴代受賞者が掲載されていて参考になります。

★『結婚しなくていいですか。 すーちゃんの明日』【分類 3103/マ】

益田ミリ 幻冬舎 2008年

○30代半ば、一人暮らしの“すーちゃん”はカフェの店長をしています。まだ本気モードで結婚を考えてはいないけれど、一人の帰り道やアパートでふと考えるのは老後の不安。本書は、そんなすーちゃんと、すーちゃんを取り巻く女性たちの日常を描いた漫画です。ふんわりとした優しい絵柄とは裏腹に、すーちゃんたちの言葉はしっかりとした重さを持って心に残ります。考えても考えてもすーちゃんたちの遠い未来の姿ははっきりしませんが、すーちゃんたちのようにふと立ち止まっては考えて、着実に歳を重ねて理想の自分になっていけたら…そう思えるような一冊です。

★『育児ばかりでスママセン。』【分類 3206/エ】

望月昭 幻冬舎 2010年

○ドラマ化して映画にもなった細川貂々著『ツレがうつになりまして。』のツレさんによる育児エッセイ本です。「イクメン」かつ「カジダン (家事に積極的な男性)」ではありますが、決してスーパーパパではありません。どこにでもいる育児に悩む「ファーストパーソン (子どもにとって一番の人、ツレさんのこだわりポイント)」です。でも、うつ時代のツレさんを本で知るものとして、ツレさんがフツウに生活できていること、息子のちーとくんに振り回されても喜びを感じられていることが嬉しい。うつ病を乗り越え、育児でも新たな価値観を見出したツレさんを応援したいなと思います。

H23年12月
から
新着図書 今月のオススメ本

★『苦節 23 年、夢の弁護士になりました』【分類 1202/カ】

神山昌子 いそっぷ社 2011 年

○著者が弁護士を目指して司法試験の勉強を始めたのは 34 歳の時。それから年に 1 回の試験に挑戦し続け、23 回目ようやく合格した時はなんと 59 歳でした。本書の約半分を割いて描かれる 23 年の受験生活や、その後の弁護士としての仕事振りは、まさに悪戦苦闘といった様子ですが、あっけらかんとした語り口のため非常に読みやすいです。困った人を助けたいという強い使命感を貫き通し、弁護士としての誇りを持って仕事をする著者の様子から、「精一杯、人生を演じようよ」というメッセージが伝わってくる一冊です。

★『性暴力』【分類 5210/ヱ】

読売新聞大阪本社社会部 中央公論新社 2011 年

○本書は、裁判員裁判導入を契機に、タブー視されてきた性暴力問題にガチンコで取り組んだ読売新聞の記事「性暴力を問う」に加筆・修正したものです。坂田記念ジャーナリズム賞特別賞を受賞したこの記事では、被害者の「声なき声」を拾い上げ、読者に性暴力の深刻な実情を伝えています。何より記者たちの「性暴力は絶対に許してはいけない」という気持ちがすごく伝わってきます。包帯を髭髻させる装幀にもその気持ちが表れていると思います。社会の空気が変わりつつある今だからこそ読んで頂きたい一冊です。

★『七人の敵がいる』【分類 6102/カ】

加納朋子 集英社 2010 年

○出版社に勤めるキャリアウーマンの山田陽子は、仕事と子育て・家庭生活の両立のために奮闘しています。しかし、ハッキリものをいうタイプのため、何かとトラブルを引き起こしてしまいます。PTA、学童保育所の父母会、自治会、サッカー少年団の父母会の会合などでもめたり、義理の姉・妹、夫、息子、先生、専業主婦の PTA 会長などとの人間関係でぶつかったり……。そのときどきに、看護師の友人、ヤンキー風のママ、若いシングルマザー、親の介護で仕事を辞めた有能な主婦、盗み癖のある母親などの協力を得てなんとか乗り切っていきます。

H24年1月
から
新着図書 今月のオススメ本

★『働く君に贈る 25 の言葉』【分類 2110/㍿/】

佐々木常夫 WAVE 出版 2010年

○親戚のおじさんが甥に手紙で伝える「仕事の心得」という体の若手社員向けのビジネス本。著者が贈る 25 の言葉は殊更特別なものでも目新しいものでもないのですが、母親から受け継いだ志と自身で獲得した仕事経験とそのスキルを織り交ぜることで、まるで水戸のご老公様のような切れ味と安心感が加わり、深く胸を打つのです。ジェンダー視点から見ると女性非正規社員は少々見落とされている感がしますが、本書が推奨する「ワーク・ライフ・マネジメント」の発想・手法は勉強になりますし、何より情けは人のためならず的な働き方から学ぶものは多いと思います。

★『ゆっくりやさしく社会を変える NPO で輝く女たち』【分類 2205/㍿/】

秋山訓子 講談社 2010年

○中村順子さん（63 歳）は地元・神戸で、自ら被災しながら救援活動の先頭に立ち、日本の NPO を代表するリーダーとなった人です。神戸市の自宅で震災に遭遇。ライフ・ケア協会で世話をしていた高齢者や障害者の自宅を訪問。まずは「水汲み 110 番」をはじめます。仮設住宅ができると、住民同士の交流の場「茶話やかテント」をつくります。いろいろな活動を通してボランティアでは限界があると感じ、NPO を立ち上げることに。他にシングルマザーの助け合いネットワークや大家族を想定した介護などの活動をしている方々の事例が掲載されています。

★『負けないで!』【分類 6201/㍿/】

小笠原恵子 創出版 2011年

○現在、著者は女子プロボクサーとして活躍していますが、生まれつき聴覚障がいがあります。本書では、その半生、プロになるまでの道のり、プロとしてのリングでの闘いなどが綴られています。著者にとって「何となく」始めたボクシングでしたが、熱中するほどに高まるプロになりたいという欲求を、障がいのために諦めたこともありました。障がいや女という性に甘んじてしまう自分自身に悔しさを感じながら、一進一退を繰り返す著者のひたむきさと、それを支える周囲の人たちの姿が、読み手に力を与えてくれるような本です。

H24年2月

から

新着図書

今月のオススメ本

★『ハーフ・ザ・スカイ 彼女たちが世界の希望に変わるまで』【分類 1101/㍿】

ニコラス・D・クリストフ&シェリル・ウーダン 英治出版 2010年

○人身売買、名誉殺人、性暴力、妊産婦死亡、性器切除……世界で起こっている女性への虐待で、一説には1億人もが姿を消しているといわれます。しかし、凄惨な境遇の中で自ら立ち上がり、同じ状況の女性を助ける活動を始める女性も少なくありません。著者は『ニューヨーク・タイムズ』の記者ですが、取材をする傍ら救出・支援の活動もしています。アジアやアフリカの貧困や戦争、宗教や古いしきたりなどの女性抑圧の原因を考察し、詳しく記述しています。目を背けたくなる場面もありますが、知っておきたい事実です。

★『結婚問題』【分類 3101/㍿】

深澤真紀 春秋社 2011年

○結婚が問題でなく、結婚に関わる諸問題が問題なのであるという本です。本書では、現代日本の結婚を「自由度の低い法律諸々のシステムを基盤としながらも、ものすごく自由度の高いライフスタイルを志向できるため当事者たちは<幻想>に囚われ迷走している」と分析。そこで著者は、結婚に関わる幻想から逃れることなんてできないのだから上手く折り合いをつけましょうねと、結婚問題をさらりと嫌味なくシンプルに整理しています。快刀乱麻の如くではなく、ちょっとしたぼやきにぼやきを返しつつ状況整理してくれる感じが安心できる一冊です。

★『ラグビーガールズ 楯円球に恋して』【分類 6201/㍿】

松瀬学 小学館 2011年

○ラグビーというと男性のスポーツ、というイメージが拭えない方もいるかもしれませんが、しかし、23年4月から「タグラグビー」が小学校の学習指導要領の内容に例示され、男女共に取り組めるラグビーの認知度は徐々に高まっています。タグラグビーとは、タックルの代わりに体につけたタグ（札）を抜き取ってパスを繋げていくため、年齢や性別を問わず楽しめるスポーツなのです。本書でスポットを当てた女性たちも、入り口はこのタグラグビーでした。小さな公園でタグラグビーをしていた少女たちの中から、ラグビーの日本代表選手が羽ばたいていく過程は一見して順調なようですが、もちろん様々な努力があればこそだということが伝わり、思わずこれからの活躍を期待してしまいます。

H24年3月

から

新着図書

今月のオススメ本

★『〈わたし〉を生きる 女たちの肖像』【分類 2202/シ】

島崎今日子 紀伊國屋書店 2011年

○本書は、主に雑誌『アエラ』の「現代の肖像」という特集において、各界で活躍する女性たちへの取材をまとめたノンフィクションです。著者が取材した「女たち」は、作家、経営者、スポーツ選手など16人にも及びますが、それぞれの仕事や生き方にまつわるエピソードが十数ページずつにぎゅっと凝縮されています。一人ひとりの個性に惹かれると同時に、彼女たちには通底しているものがあることが分かります。それは、自身の信じた理想の〈わたし〉を目指す、芯の通った強さです。本書を入口に、彼女たちの著作などに触れてみるのも一興です。

★『なさけないけど あきらめない チェルノブイリ・フクシマ』【分類 5104/カ】

鎌田實 朝日新聞出版 2011年

○長年、チェルノブイリやイラクへ医療支援活動をしてきた著者は、3.11 東日本大震災時も早速現地に入りました。また、現場の状況をリアルタイムでブログで発信。原発から30キロ圏内の南相馬市立総合病院などで、医師・看護師らとともに支援活動を開始。なかなか入って来ない医薬品などの物資の入手に尽力したり、千人風呂プロジェクトを計画したり。被災した人々と同じく、支援している著者も、心が動揺し、ついなさけなさや怒りの気持ちをブログで吐露。参考になるのが、専門家との対談で、一般の人々が抱いている疑問を率直にぶつけています。

★『月夜にランタン』【分類 6102/サ】

斎藤美奈子 筑摩書房 2010年

○本好きさんのための本ですが、本に興味がなくとも時事問題を扱っているので、ニュースを何となくとも見ている方にはいろいろと「とっかかり」があり楽しめると思います。具体的には、毎回3冊の本をおかずに、“政治家”とか“裁判員制度”とか“若者論”とか“婚活”とか“ミシュラン”とか“ケータイ小説”とかその他諸々について齋藤さんが駄弁ります。ジェンダー視点の持ち主で常にバリバリ注入中の方なので、ちょこちょこセンター図書室所蔵本が紹介されているのか嬉しいところ。この本を機にそれらも…という期待もこめて推薦いたします。